

2025年度（令和7年度）の研究について

1. 研究主題

自他を大切にし、主体的に学び合う子どもの育成

2. 研究主題設定の理由

(1) 今日の課題から

今日まで、社会は急速に変化しており、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展、AIの普及等を含む最先端テクノロジーの進歩等によって価値観が多様化してきた。加えて、コロナ禍によって社会の在り方や働き方、サービスの在り方等々、あらゆるものに新たな見方・対応の仕方が求められ、スタイルは多様化してきており、それによって価値観は一層複雑化し、先を見通すことが一段と難しくなっている。その中で、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極めて再構成し、新たな価値観につなげていくことができるようにすることなどが求められている。

また、society5.0社会に向けて、読解力や情報活用能力、自分の頭で考えて表現する力、対話や協働を通じて知識やアイデアを共有し新しい解や納得解を生み出す力が必要だとされている。そのため、教育も大きな変革期を迎え、様々な教育改革が進められてきた。その基本理念となっているのが「生きる力の育成」である。それを受け、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開しているところである。

そして、今後は、コロナ禍等の不測の事態も見越して、今後変化するであろうことを予測しながら、それらに柔軟に対応できる力を育成しなければならない。そのためには、児童一人一人の自己肯定感を高め、主体的に学び合う姿勢や、自分の夢に向かって、多少の困難に行き当たっても諦めずに前向きに努力して進んでいく心のたくましさ育てることが重要である。

そこで本校では、変化の激しい時代を切り拓いていけるようにするために、自己肯定感や自己有用感を高め、主体的に課題解決へと向かって学び合うことができるような児童を育成することを目指していきたいと考え、本主題を設定した。

(2) 学校教育目標から

本校の児童が、夢や希望をもって健やかに成長していくことをめざし、時代の変化に伴う学校教育の課題や保護者、教職員の願い、地域、児童の実態に対応した教育を推進するために、次のような教育目標を設定している。

教育目標	児童のめあて
・心ゆさぶる感性	・のびのび語り合う子
・学びを求める知性	・ぐんぐん学び合う子
・生き方を磨く感性	・もりもり鍛え合う子

(3) 児童の実態から

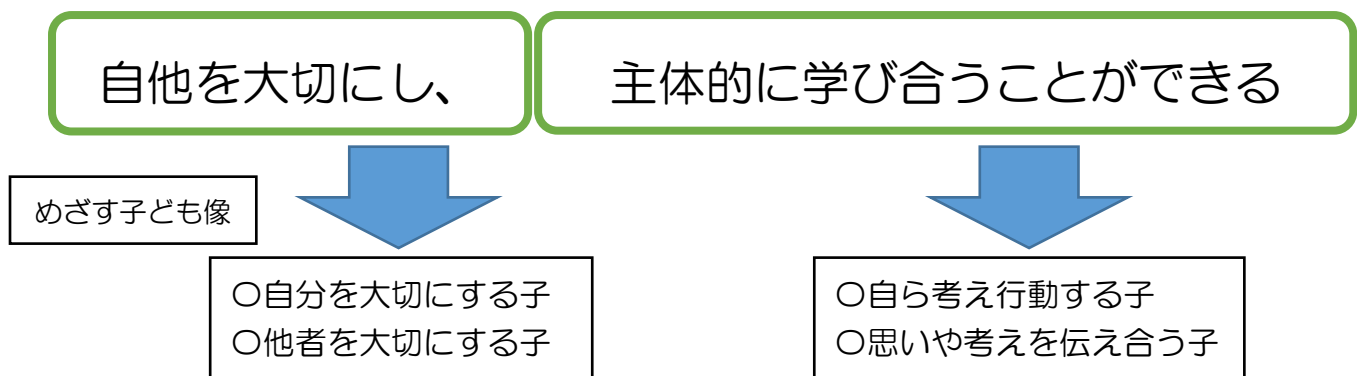
これまでの研究の成果から、学習課題を集団で解決していこうという意識の高まりや支持的風土が根付いてきており、豊かな話し合いが、協動的な学びにつながっていくという基盤が出来上がってきている。

一方で、「自分には良いところがある」など自己肯定感や自己有用感が低い児童が多いという実態もある。学習に取り組む姿勢や生活態度はまじめではあるが、自信がもてず失敗を恐れるなど、やや消極的な面もみられ、多少の困難にぶつかっても前向きに取り組む姿勢が今後求められる資質の一つである。自己決定の場を増やし、「できた」・「やった」などの成功体験を味わっていく中で、「やってみよう」・「挑戦してみよう」など主体的に考えて行動する力を伸ばしていくことは今後の課題と言える。

以上のことから、今の本校の児童に求められているのは、自己肯定感や自己有用感を高め、自ら考えて行動し、思いや考えを伝え合っていくことではないかと考える。

3. めざす子ども像

研究主題を具現化するために、主題に照らし合わせて、本研究のめざす子ども像を具体的な姿として設定した。



4. 研究仮説

(1) 一人ひとりの実態に応じた多様な選択肢と自己決定を意識した授業づくりを行うことによって、自ら考え、進んで学ぶ子どもが育つであろう。

(2) 対話の価値や必要性を感じられる場、協動的、対話的に問題解決に取り組む場を設定することによって、お互いの考えを伝え合い、自分も他者も大切にする子どもが育つであろう。

5. 研究内容

(1) 個の実態に応じた授業づくり (R6年度研究重点)

- ① 自己決定 (学習方法、目標、進度)
- ② 見通し (1時間の見通し、単元の見通し、時間配分)
- ③ 振り返り (教科のふりかえり、学習方法のふりかえり、メタ認知)
- ④ ICTの活用 (ミライシード、NHK for school、YouTube Google education など)

(2) 協動的・対話的な学び (R7年度研究重点)

- ① 協働・対話のねらい・場の設定 (どの場面で、どのように、何のために)
- ② 学習形態の工夫 (ペア、グループなど)
- ③ ICTの活用 (情報共有、共同編集など)

6. 研究を支える土台

(1) 心を育む環境づくり (R5年度研究重点)

- ①めあての振り返り
- ②読書カードの認め合い活動
- ③道徳科の授業の充実
- ④学級活動の見直し

(2) 認め合う仲間づくり (R5年度研究重点)

- ①ふれあい集会の振り返り
- ②行事や諸活動における感想交流

(3) ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学習環境

- ①学級づくり (環境面)
- ②授業づくり (学習面)

(4) 学習規律の確立

7. 研究の全体構造（3 か年計画）

【学校教育目標】

◎心ゆさぶる感性：のびのび語り合う子 ◎学び求める知性：ぐんぐん学び合う子 ◎生き方磨く個性：もりもりきたえ合う子

小中 9 年間でめざす子ども

「知・徳・体をバランスよく備えた児童・生徒像の実現」

- 自らの力で人生をデザインできる子ども
- しっかりとしたコミュニケーションができる子ども
- 地域を愛し、地域の良さを紹介できる子ども

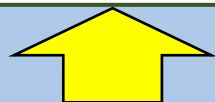
経営の重点

意欲が溢れ、子どもが輝く自立した「学びの場」の充実

1. 対話を重視した西当別小学校の授業スタイルの明確化と「伸びしろ層を0」にする指導内容や方法の工夫
2. 基礎学力の定着につながるICTの有効活用
3. 幼保小及び小中間における教育課程の内容面での連携強化
4. WEB・QU等を活用した自己肯定感を高める教育活動の推進
5. 個別の教育的ニーズに基づいた支援体制の充実と児童や保護者が相談しやすい体制の整備
6. メタ認知に関わる力の育成

めざす子ども像

- 自分を大切にする子
- 自ら考え行動する子
- 他者を大切にする子
- 思いや考えを伝え合う子



【研究主題】

自他を大切にし、主体的に学び合う子どもの育成

研究仮説

- (1) 一人一人の実態に応じた多様な選択肢と自己決定を意識した授業づくりを行うことによって、自ら考え、進んで学ぶ子どもが育つであろう。
- (2) 対話の価値や必要性を感じられる場、協働的、対話的に問題解決に取り組む場を設定することによって、お互いの考えを伝え合い、自分も他者も大切にすることが育つであろう。

研究内容 1

個の実態に応じた授業づくり

- ① 自己決定
- ② 見通し
- ③ ふり返り
- ④ ICTの活用

研究内容 2

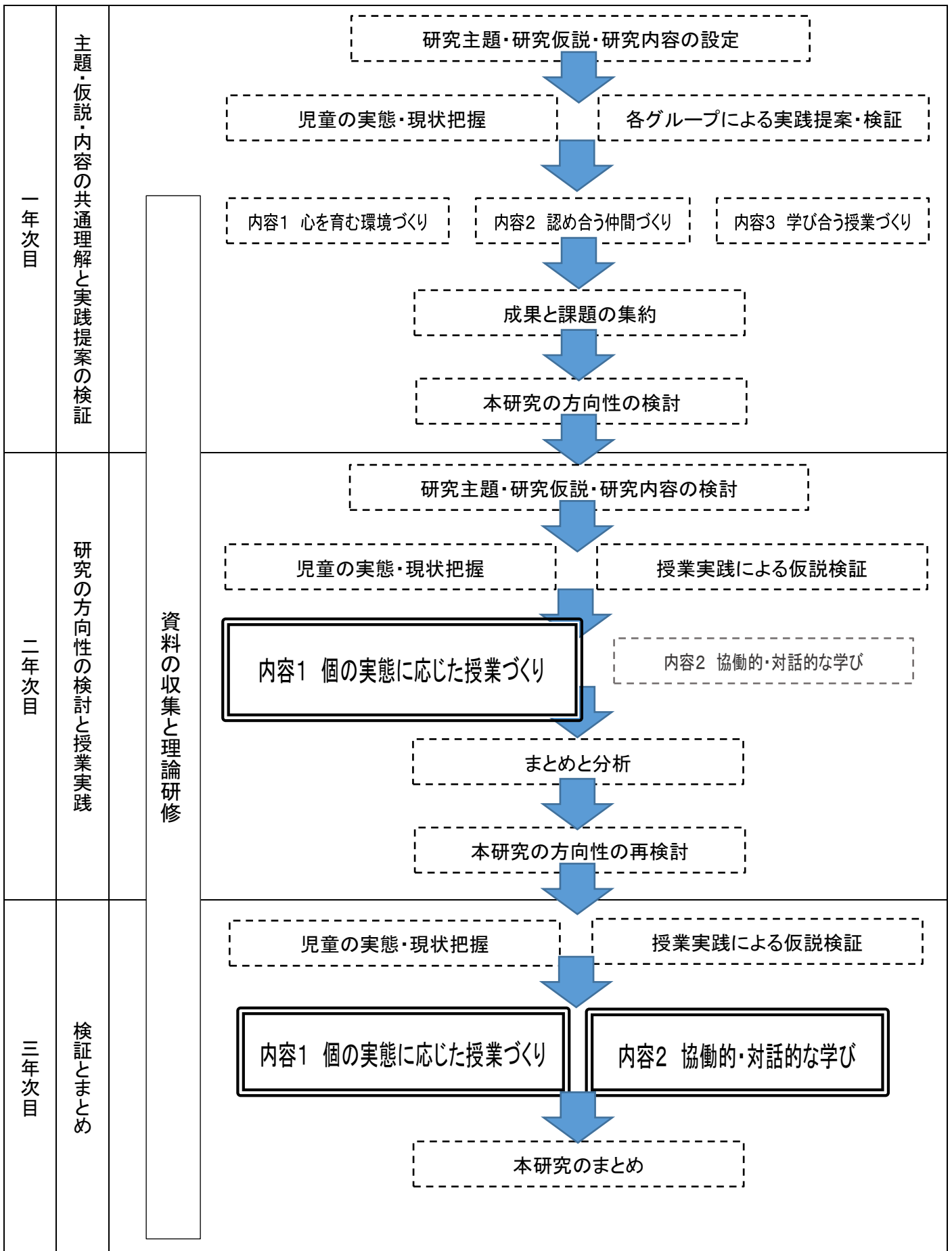
協働的・対話的な学び

- ① 協働・対話のねらい・場の設定
- ② 学習形態の工夫
- ③ ICTの活用

研究の土台

心を育む環境づくり・認め合う仲間づくり・UDの視点を取り入れた学習環境・学習規律の確立

8. 研究計画



資料の収集と理論研修